保存版

流山市 土砂災害ハザードマップ

（北部・中部地区）

災害から命を守る、
日ごろの備えと
地域のきずな

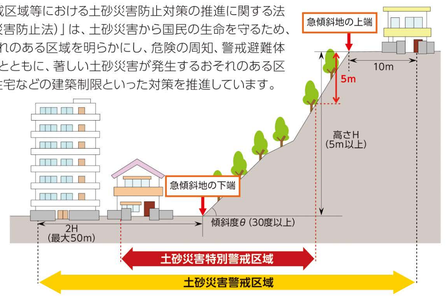
流山市

編集・発行
令和7年12月作成
流山市 市民生活部 防災危機管理課
TEL. 04-7150-6312

がけ崩れから身をまもる

土砂災害警戒区域・土砂災害特別警戒区域とは

「土砂災害警戒区域等における土砂災害防止対策の推進に関する法律（通称：土砂災害防止法）」は、土砂災害から国民の生命を守るため、土砂災害のおそれのある区域を明らかにし、危険の周知、警戒避難体制の整備を図るとともに、著しい土砂災害が発生するおそれのある区域については、住宅などの建築制限といった対策を推進しています。



土砂災害警戒区域（イエローゾーン）

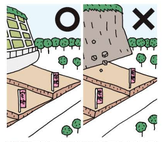
急傾斜地の崩壊等が発生した場合に、住民等の生命又は身体に危害が生じるおそれがあると認められる区域であり、危険の周知、警戒避難体制の整備が行われます。

土砂災害警戒区域の指定基準

- 傾斜度が30度以上で高さが５メートル以上の区域
- 急傾斜地の上端から水平距離が10メートル以内の区域
- 急傾斜地の下端から急傾斜地の高さの２倍（50メートルを超える場合は50メートル）以内の区域

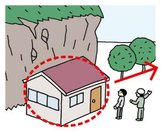
土砂災害特別警戒区域（レッドゾーン）

急傾斜地の崩壊等が発生した場合に、建築物に損壊が生じ、住民等の生命又は身体に著しい危害が生じるおそれがあると認められる区域で、特定の開発行為に対する許可制、建築物の構造規制等が行われます。



特定の開発行為に対する許可制（千葉県）

居室を有する建築物の構造規制



建築物の移転等の勧告（千葉県）

土砂災害特別警戒区域の指定基準

急傾斜地の崩壊等に伴う土石等の移動等により建築物に作用する力の大きさが、通常の建築物が土石等の移動等に対して住民の生命又は身体に著しい危害が生じるおそれのある損壊を生じることなく耐えることのできる力を上回る区域

急傾斜地の崩壊（がけ崩れ）

土砂災害の種類には、急傾斜地の崩壊（がけ崩れ）、土石流、地すべりの３つの現象があります。**流山市で発生するおそれのある土砂災害は急傾斜地の崩壊（がけ崩れ）**です。

がけ崩れは、大雨や台風等により、がけに水が浸透することでがけの強度が低下し、突然崩れ落ちる現象です。崩れた土砂は、がけの高さ以上に離れた場所まで到達することがあります。**前兆現象を確認するなど、危険を感じたら、速やかに避難しましょう。**

前兆現象

- 小石がパラパラ落ちてくる
- 斜面に割れ目ができる
- 斜面から水が湧き出す

気象情報や避難に関する情報の流れを確認

災害の危険性が高まると**「土砂災害警戒区域」**に**「避難情報」**を発令します

避難情報等

警戒レベル	避難行動等	避難情報等
警戒レベル5	既に**災害が発生または切迫**している状況です。**命を守るための最善の行動**をとりましょう。	緊急安全確保 流山市が発令
警戒レベル4	**危険な場所から全員避難**しましょう。避難場所までの移動が危険と思われる場合は、近くの安全な場所や、自宅内のより安全な場所に避難しましょう。	避難指示 流山市が発令
警戒レベル3	**避難に時間を要する人（高齢の方、体の不自由な方、乳幼児等）とその支援者は危険な場所から避難**しましょう。その他の人は、避難の準備を整えましょう。	高齢者等避難 流山市が発令
警戒レベル2	避難に備え、土砂災害ハザードマップ等により、**自らの避難行動を確認**しましょう。	大雨注意報　等 気象庁が発表
警戒レベル1	災害への心構えを高めましょう。	早期注意情報 気象庁が発表

※避難情報等は令和３年９月時点の情報です。

防災気象情報

警戒レベル相当情報（例）

- 警戒レベル５相当情報　大雨特別警報（土砂災害）
- 警戒レベル４相当情報　土砂災害警戒情報　等
- 警戒レベル３相当情報　大雨警報（土砂災害）等

これらは、住民が自主的に避難行動をとるために参考とする情報です。

避難に関する情報が発令されていなくても、危険を感じたら迷わず避難

雨の降り方と災害発生との関係

1時間雨量	降り方のイメージ	災害発生時の状況
10～20ミリ	・ザーザーと降る	・この程度の雨でも長く続くときは注意が必要
20～30ミリ	・どしゃ降り ・車のワイパーを速く動かしても前方が見づらい	・側溝や下水、小さな川があふれ、小規模のがけ崩れが始まる
30～50ミリ	・バケツをひっくり返したように降る ・車での高速走行時にブレーキが利きにくくなる	・がけ崩れが起きやすくなり、危険地帯では避難の準備が必要
50～80ミリ	・滝のようにゴーゴーと降り続く ・これ以上、車の運転は危険	・マンホールから水が噴出する ・土砂災害が起こりやすい
80ミリ以上	・息苦しくなるような圧迫感がある ・恐怖を感じる	・雨による大規模な災害の発生するおそれが強く、厳重な警戒が必要

※雨の降り方が強くない場合でも、長時間、雨が降る場合はがけ崩れの危険が増加します。

ハザードマップの使い方

1 自宅を見つけましょう

自宅が土砂災害警戒区域等に入っていないか確認しましょう。

2 避難する場所を確認しましょう

土砂災害からの避難方法を確認しましょう。立ち退き避難が必要な場合を想定して、適切な避難先を確認し、大きく印をつけるなどして災害時に備えましょう。

3 安全な避難経路を決めましょう

災害時には通れなくなってしまう道もあるので避難経路を複数決めましょう。

4 実際に避難経路を歩いてみましょう

家族やご近所の方と一緒に歩いて、危険な箇所がある場合は、避難経路を見直しましょう。

5 家族で災害時の対応を話し合いましょう 自分が避難する必要があるか確認しましょう

洪水や大雨・土砂災害の際の行動について、家族と話し合い、災害時の約束事を決めましょう。

6 学校やご近所で考えましょう

学校やご近所で、災害や避難について話し合い、情報を共有しましょう。高齢者など、避難に支援が必要と思われる方についても、みんなでできることを考え、避難の際に協力しましょう。

7 我が家の防災メモを完成させましょう

災害時に役立つ情報

流山市公式LINE（ライン）アカウント

災害時における避難指示など緊急にお知らせしたい情報を発信します。受信設定から「災害・火災・インフラ情報」のカテゴリを登録してください。

流山市公式X

https://X.com/nag_anshinanzen
@nag_anshinanzen

流山市ホームページ

https://www.city.nagareyama.chiba.jp

防災行政無線テレホンサービス

通話無料 0120-78-3170（ナガレヤマ サイナンゼロ）

災害情報などの重要な情報を市内79局の屋外スピーカーから放送します。放送内容が聞きづらい場合は、テレホンサービスをご利用ください。

防災アプリ「Yahoo! 防災速報」

スマートフォン等で利用できるアプリケーションです。防災気象情報や緊急地震速報、避難所開設情報などを、プッシュ通知でお知らせします。

ios　Android

緊急速報メール

気象庁が配信する緊急地震速報や津波警報、国や地方公共団体が配信する災害・避難情報を特定エリアの携帯電話に一斉にお知らせするサービスです。

千葉県土砂災害警戒情報システム

土砂災害危険度や土砂災害警戒情報などを発信しています。
http://dosyabo.bousai.pref.chiba.lg.jp/chibaDosya/web/top/

銚子地方気象台

今後の気象情報や発令中の気象情報を市町村ごとに確認できます。
https://www.jma-net.go.jp/choshi/

テレビ（dボタン）

天気予報、警報や注意報、避難情報、避難所開設など

「dボタン」とは、地上デジタルテレビ放送などに対応したテレビのリモコンに付いているボタンの中の一つです。
放送中の番組に連動した情報や、天気予報・交通情報などさまざまな情報を配信するデータ放送に利用されています。

デジタルテレビのリモコンにあるボタンをクリック。
地デジすべての放送局で使えます。

土砂災害の危険が迫ったら

避難時の注意事項

災害発生のおそれが高まった場合、市では避難指示などの情報を発令し、流山市公式LINEアカウントなどでお知らせします。しかし、避難指示などの情報は、すべての世帯にとって必ずしも最適な避難のタイミングであるとは限りません。各世帯における家族構成、自宅建物の高さや丈夫さ、周辺の状況、そのときの降雨や浸水状況などから判断して、危険を感じた場合は、避難指示などの情報が出されるよりも前に自主的な避難行動をとることが重要です。

夜間の避難が予想される場合などは、早め早めの行動を取りましょう!

避難に対する基本的な考え方

避難は自ら判断を

災害がせまったとき、置かれた状況は一人ひとり違います。それぞれが自ら判断し、適切な行動をとらなければなりません。

命を守る最善の行動を

避難する際には、安全の確保を第一に考えます。屋外への避難が危険だと判断したら自宅や近隣の頑丈な建物の２階へ垂直避難することも検討してください。

その場合、がけや斜面の反対側の部屋に避難してください。

例えば
- 土砂災害の危険がある地域に住んでいる
- 堤防の決壊で家屋消失、浸水の危険がある地域に住んでいる
- 子どもや高齢者など、家族に要配慮者がいる

とにかく早めの避難を心がけてください

例えば
- 避難所への道が土砂で埋まった
- 大雨で外出が危険
- 夜間のため外出が危険
- 高齢なので移動が難しい

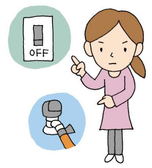
屋外での移動は危険です

避難時の心得

避難するときは、普段通っている道でも足元が見えないことがあるので慎重に歩きましょう。また、頭上からの落下物や飛来物にも十分注意しましょう。いざというときに慌てないためにも、どこへ、どの道を通って避難するのかを日頃から家族やご近所で話し合っておきましょう。

火の始末、戸締り

台所の火や暖房器具を消しましょう。避難する前にブレーカーやガスの元栓を切ります。



家族にメモを残す

避難するときは、家族に連絡先、安否情報などのメモを残しましょう。

家に引き返さない

土砂に巻き込まれる可能性があるので、忘れ物などを取りに、家に帰らないようにしましょう。

避難時は助け合おう

自力で避難することが困難な方は、早めの避難が必要です。お年寄りや子供が安全に避難できるように協力しましょう。

慌てずに行動

避難するときは、動きやすい服装で２人以上での行動を心がけましょう。長靴は危険ですので、ひもで締められる運動靴をはきましょう。

道路が冠水している場合、道路や側溝などの境目が分かりにくかったり、水圧でマンホールのふたが外れていたりすることがあります。長い棒を杖代わりにして安全を確認しながら歩きましょう。

ペットを飼っている方

流山市の指定避難所には、ペットと同行避難できます。
避難所ではケージなどを利用し、決められた場所で飼い主による管理をすることが原則です。
ペット用の防災備蓄品を持って避難しましょう。

※犬の場合、狂犬病予防注射をしていないと、避難所で受け入れられない場合があります。

我が家の防災メモ

自宅を見つけましょう

裏面の地図で自宅が土砂災害警戒区域等に入っているか確認しましょう。

□区域に入っていない　□土砂災害警戒区域　□土砂災害特別警戒区域

避難場所や避難経路を確認しましょう

状況に応じた避難方法を確認しましょう。

- 安全な場所への避難
- 近隣の高い建物等への避難
- 屋内の安全な場所への避難

避難方法に応じて、避難場所と経路を確認しましょう。

安全な場所への避難

近隣の高い建物等への避難

屋内の安全な場所への避難

状況に応じた避難行動

安全な場所への避難
避難所や高台、土砂災害警戒区域外の知人の家などに避難します。

近隣の高い建物等への避難
近くの頑丈な建物の2階以上や、高い建物のなるべく上階に避難します。

屋内の安全な場所への避難
屋外への避難がかえって危険なときは、がけとは反対側で、なるべく高い階の部屋などに避難します。

避難所への避難だけでなく、これらすべての行動が避難行動です。

災害の備え チェックリスト 非常の際に持ち出すもの

- □水
- □食品（最低3日分）
  アルファ米など、レトルト食品、ビスケット、チョコレート
- □携帯トイレ
- □携帯電話（スマートフォン）・携帯充電器
- □懐中電灯（手動充電式が便利）
- □携帯ラジオ（手動充電式が便利）
- □予備電池
- □軍手
- □防災用ヘルメット・防災ずきん
- □衣類・下着
- □大きめのタオル
- □レインウェア
- □上履き
- □常用薬
- □救急用品　ばんそうこう、包帯、消毒液など
- □使い捨てカイロ
- □洗面用具
- □歯ブラシ・歯磨き粉
- □防犯ブザー・ホイッスル
- □ペン・ノート
- □貴重品　現金、運転免許証、病院の診察券
  マイナンバーカード

感染症対策
- □マスク
- □手指消毒用アルコール
- □石けん・ハンドソープ
- □ウェットティッシュ
- □体温計

子どもがいる家庭の備え
- □液体ミルクなど
- □離乳食
- □子供用紙おむつ
- □お尻ふき
- □おむつ用ごみ袋
- □抱っこひも
- □子供の靴

女性の備え
- □生理用品
- □サニタリーショーツ
- □おりものシート
- □中身の見えないゴミ袋
- □基礎化粧品

高齢者がいる家庭の備え
- □大人用紙パンツ
- □入れ歯・入れ歯用洗浄剤
- □デリケートゾーンの洗浄剤
- □杖
- □老眼鏡
- □持病の薬

ペット同行避難の備え
- □キャリーバッグ・ケージ
- □ペットフード
- □薬
- □予備の首輪・リード
- □トイレ用品

準備が出来たら☑チェックを入れよう

備蓄品
家に備えておくもの

食料や水　最低3日分（できれば1週間分）×家族の人数分
保存期間の長いものを多めに買っておき、消費したら補充するという習慣で常備

生活用品　ティッシュ、トイレットペーパー、ラップ、ゴミ袋、ポリタンク、携帯トイレなど

ほかにも、家庭で必要なものは日ごろから備えておきましょう